

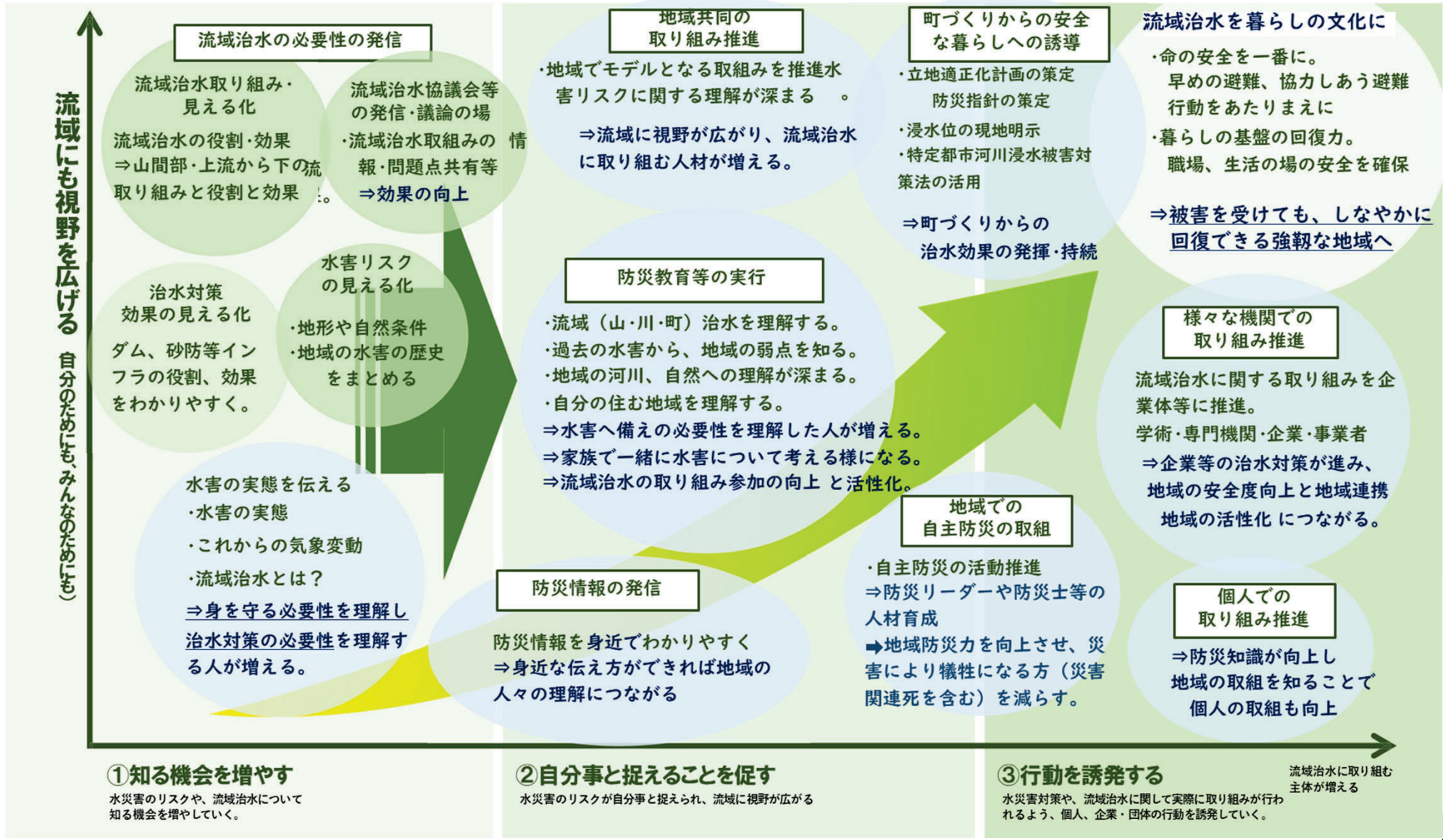
7-2)自分事化に向けた 取り組み計画と実績のとりまとめ

・令和6年2月8日 筑後川・矢部川流域治水協議会にて
自分事化に向けた取組計画を策定。 P11~13

・取り組み計画に基づいた令和7年度の実績とりまとめ P14

自分事化に向けた取組計画 目標の考え方

筑後川・矢部川水系流域治水協議会 目標の考え方のまとめ



自分事化に向けた取組計画(目標・実行内容)令和6年2月8日策定

筑後川・矢部川水系流域治水協議会 目標 実行内容

流域にも視野を広げる自分のためにも、みんなのためにも

流域治水の必要性の発信

- 流域治水取り組み・効果の見える化
- ・ホームページで取組の発信
- ・実施状況や効果情報の発信

- 流域治水協議会の実施発信・議論の場
- ・流域治水取組みの情報・問題点共有等

治水対策効果の見える化

- ・治水効果をタイムリーに発信(出水情報)
- ・社会見学
- ・地域イベント

水害リスクの見える化

- ・浸水想定区域・土砂災害警戒区域等の見直し公表
- ・総合的なハザードマップ
- ・浸水や被災地の現地明示
- ・地域の災害史等を公開

水害の実態

- ・これからの気象変動
- ・流域治水とは?
- ・広報誌
- ・イベントでの広報
- ・出前講座
- ・写真や記録等の展示会

地域共同の取組み推進と人づくり

- ・地域でモデルとなる取組み等を推進
- ・水防活動の体制や拠点づくり・水防団等募集等
- ・出水時の資材の準備等
- ・田んぼダム、水路ため池等の先行排水の推進
- ・水路・ため池等浚渫等維持管理の推進
- ・取組みの議論の場をもつ

町づくりからの安全な暮らし誘導

- ・町づくりの議論の場
- ・浸水情報の現地明示
- ・立地適正化計画の策定
- ・地域防災指針の策定
- ・特定都市河川浸水被害対策法の活用検討

多様な防災教育等の実行

- ・小・中学生等の防災・歴史・環境教育
- ・地域での防災・歴史教育(年齢層等を意識)
- ・企業体への防災・歴史・環境講習
- ・河川・地域協力団体で実施する勉強会
- ・自治体間で連携した勉強会
- ・インターネット配信の学習会
- ・防災ゲーム

様々な方法での防災情報の発信

- ・浸水センサーの活用・水位計カメラの活用
- ・防災リーダーや防災士等を活用した情報発信
- ・防災情報ツールの活用普及
- ・緊急速報、アラートの活用
- ・メディアと連携した情報発信

地域での自主防災の取組による人材育成

- ・住民参加防災訓練の実施
- ・マイタイムラインの作成
- ・避難所や避難ルートの事前確認
- ・地域の防災ルール(地区防災計画)の作成
- ・防災リーダーや防災士等の育成

個人での取組み推進

- ・マイタイムラインの作成
- ・避難所や避難ルートの事前確認
- ・非常持出袋や備蓄の事前準備
- ・避難時の隣近所への声掛けや

流域治水を暮らしの文化に

- ・命の安全を一番に。早めの避難、協力しあう避難行動をあたりまえに
- ・暮らしの基盤の回復力。職場、生活の場の安全を確保
- ⇒被害を受けても、しなやかに回復できる強靱な地域へ

様々な機関で連携した取組み推進

- 流域治水に関する取組みを企業体等に推進。
- 学術・専門機関・企業・事業者
- ・専門機関と協働で防災情報の活用的高度化
- ・企業等の施設保全計画、避難等基準等の整備
- ・要配慮者施設の防災・避難計画
- ・企業等での雨水対策施設の設置推進

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がる

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

自分事化に向けた取組計画(ロードマップイメージ)令和6年2月8日

筑後川・矢部川水系流域治水協議会

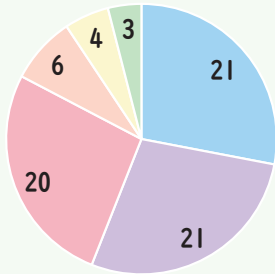
取組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①知る機会を増やす	◎流域治水の必要性の発信 地域 個人 企業・団体	広報誌での啓発 ●	広報誌での啓発 ●	広報誌での啓発 ●	会議の実施 ●
	◎水害情報の見える化と活用 地域 個人 企業・団体	出前講座等を活用した情報発信	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップの更新、配布等	地域の災害歴史や最新の災害情報を発信、公開。	広報誌、メディア活用
②自分事と捉えるよう促す	◎地域共同の取組推進 地域 個人 企業・団体	市民での土のうの事前作成 ● 水路土砂撤去 ●	田んぼダム・水路等事前排水・水防活動	取組手法の議論検討の場 ●	
	◎多様な防災教育等の実行 地域 個人 企業・団体	防災講話、研修会 ●	家族向けイベント ●		
	◎様々な方法での防災情報の発信 地域 個人 企業・団体	学校・企業・自治区にむけた 防災教育、出前講座、会議での意見交換	住民参加型の防災訓練 ●		
③行動を誘発する	◎町づくりからの安全な暮らしへの誘導 地域 個人 企業・団体	地域への浸水等の記録の設置等 地域の理解が継続する。	町づくりの議論の場 ●		
	◎様々な機関での取組み推進 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保	タイムラインの作成・周知	防災イベントの共同開催 ●	
	◎自主防災の取組み推進 地域 個人	ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進	自主防災計画等のルールづくりの支援、生活弱者への協力体制の構築		

筑後川・矢部川流域治水協議会 自分事化の取組 令和7年度実績まとめ

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

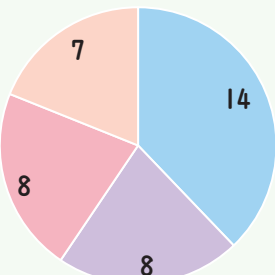
流域地水の必要性の発信

流域治水の必要性発信 (28団体のうち)



- HP、広報誌等を活用した防災に関する情報発信
- 防災訓練の実施
- 学校授業や出前講座による啓発
- 防災イベントの実施
- 排水施設の整備と訓練の実施
- 危険箇所等におけるフィールドワーク

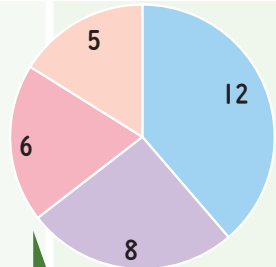
水害リスクの見える化 (28団体のうち)



- ハザードマップの公表・配布
- 水位計・河川監視カメラ等の設置
- 防災マップの作成
- 防災に関する計画の策定

地域共同の取組推進と人づくり

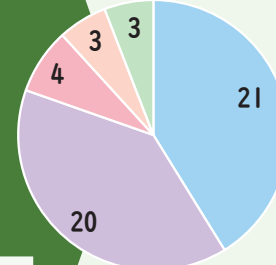
地域共同の取組 (28団体のうち)



- クリーク先行排水やため池低水位管理
- 田んぼダムの実施
- 浚渫等のボランティア活動
- 関係部署等による防災・減災対策に関する会議

多様な防災教育等の実行

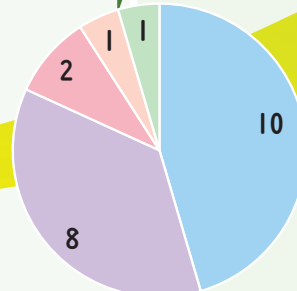
多様な防災教育 (28団体のうち)



- 防災訓練の実施
- 学校授業や出前講座による啓発
- 排水施設の整備と訓練の実施
- 危険箇所等におけるフィールドワーク
- マイタイムラインの作成推進

様々な方法での防災情報の発信

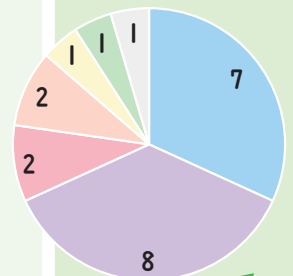
様々な方法での防災情報の発信 (28団体のうち)



- 公式LINEや防災メール、防災無線を活用した情報提供
- 水位計・河川監視カメラ等の設置
- 防災ラジオの各戸配布
- 気象災害予測支援システムの導入
- G空間情報提供システムの導入

町づくりからの安全な暮らしへの誘導

まちづくりからの取組 (28団体のうち)



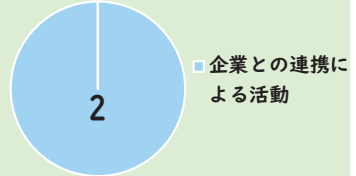
- 防災に関する計画の策定
- 立地適正化計画の策定 (防災指針含め)
- 雨水貯留タンク、浸透枳、止水板設置補助
- 特定都市河川の指定
- 宅地嵩上げや高床化の補助
- 開発事前審査会の実施
- 指定避難所看板の設置、更新

流域治水を暮らしの文化に

- 命の安全を一番に。
 - 早めの避難、協力しあう避難行動をあたりまえに。
 - 暮らしの基盤の回復力。
 - 職場、生活の場の安全を確保。
- ⇒被害を受けても、しなやかに回復できる強靱な地域へ

様々な機関で連携した取組推進

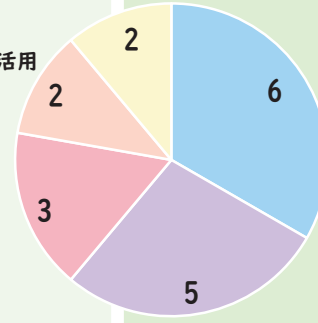
企業等連携 (28団体のうち)



個人での取組推進

地域での自主防災の取組による人材育成

自主防災の支援・人材育成 (28団体のうち)



- 防災士やリーダーの育成支援
- 自主防災組織の支援
- マイタイムラインの作成、作成推進
- 意見交換会の実施 校区コミュニティ
- 資材の配備 (避難所への備蓄品等)・水防団等備品

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取組が行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える